

Maekawa T. Comparative Analysis of Zoledronic Acid Administration Routes and Periodontitis on The Development and Severity Of Bisphosphonate-Related Osteonecrosis of The Jaw in Mice. 72nd Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research, Kagoshima, November 16-17th 2024.

American Journal of Physiology-Gastrointestinal and Liver Physiology.328.G277-G288. 2025.

口腔生理学分野

【著書】

- 1) 岡本圭一郎(分担). 楽しい日本酒学入門 : お酒好きのための教養講義. 新潟大学日本酒学センター編. 河出書房新社, 2025年2月.

【論文】

- 1) Kajita Piriyaarasath, Mana Hasegawa, Yuya Iwamoto, Rantaro Kamimura, Andi Sitti Hajrah Yusuf, Noritaka Fujii, Kensuke Yamamura, Keiichiro Okamoto. Effects of treadmill running on anxiety- and craniofacial pain-like behaviors with histone H3 acetylation in the brain of mice subjected to social defeat stress. PLOS ONE 20(1) e0318292-e0318292 2025.
- 2) Kajita Piriyaarasath, Yoshito Kakihara, Mana Hasegawa, Yuya Iwamoto, Yoko Hasegawa, Noritaka Fujii, Kensuke Yamamura, Keiichiro Okamoto. Nutritional Strategies for Chronic Craniofacial Pain and Temporomandibular Disorders: Current Clinical and Preclinical Insights. Nutrients 16(17) 2868 2024.
- 3) Kensuke Yamamura, Toward prosthetic treatment that restores the pleasure of tasting food. J Prosthodont Res. 2024;68(3):viii-ix.
- 4) Nozomu Yoshioka, Masayuki Kurose, Hiromi Sano, Dang Minh Tran, Satomi Chiken, Kazuki Tainaka, Kensuke Yamamura, Kenta Kobayashi, Atsushi Nambu, Hirohide Takebayashi. Sensory-motor circuit is a therapeutic target for dystonia musculorum mice, a model of hereditary sensory and autonomic neuropathy 6. Sci Adv. 2024 Jul 6;10(30):eadj9335. Epub 2024 Jul 26.
- 5) Hiroko Fujisawa, Kensuke Yamamura. The Impact of Animal-Assisted Therapy on Changes in Autonomic Nervous Activity in Terminal Cancer Patients. International Medical Journal 31(6) 169-173 2024.
- 6) Tsutsui Y, Chotirungsan T, Pan CR, Kawada S, Magara J, Tsujimura T, Okamoto K, Inoue M. The central neural control of the posterior belly of the digastric muscles during swallowing in rats

【研究費獲得】

- 1) 山村健介(代表者) 認知症高齢者の包括的な食支援モデルの構築. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B). 22H03375.2022 (継続) .
- 2) 岡本 圭一郎(代表者) トレッドミル走がストレス誘発性の顔面痛を軽減する脳メカニズム 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C). 23K09391 2023 (継続) .

【学会】

- 1) Yuya Iwamoto, Kajita Piriyaarasath, Andi Sitti, Hajrah Yusuf, Mana Hasegawa, Yoshito Kakihara, Noritaka Fujii, Kensuke Yamamura, Keiichiro Okamoto. Agmatine improves impaired object recognition behaviors in a mouse model of craniofacial inflammation. 第102回日本生理学会総会(千葉市) 2025年3月17日.
- 2) 松尾小百合 森川和政, 熊谷美保, 加藤哲也, 小林琢也, 山村健介, 黒瀬雅之 簡易粘度計装置の開発と実用範囲の検証. 特定非営利活動法人日本咀嚼学会第34回学術大会(市川市) 2024年9月14-15日.
- 3) 岩本 佑耶, 長谷川 真奈, 山村 健介, 藤井 規孝 アグマチンはマウスの咬筋部の持続性炎症が誘発する不安行動を軽減する. 日本補綴歯科学会第133回学術大会(千葉市) 2024年7月5日.
- 4) 藤澤博子, 熊坂隆行, 山村健介 終末期がん患者における自律神経活動の変化からみた動物介在療法の影響 令和6年度新潟歯学会第1回例会(新潟市) 2024年7月13日.
- 5) 長谷川 真奈, 岡本 圭一郎, 柿原 嘉人 アグマチンが顎顔面痛誘発性の不安行動に及ぼす影響. 第44回日本歯科薬物療法学会学術大会(新潟市) 2024年7月13日.
- 6) Stephanny Castillo-Quispe, 柿原嘉人, 岡本圭一郎 酒粕の骨代謝への効果. 第44回日本歯科薬物療法学会学術大会(新潟市) 2024年7月14日.
- 7) 筒井雄平, Kajita Piriyaarasath, Titi Chotirungsan, 出羽希, 潘長榮, 真柄仁, 辻村恭憲, 岡本圭一郎, 山村健介, 井上 誠 嚥下時における顎二腹筋後腹の関与. 第57回 新潟歯学会 総会(新潟市) 2024年4月13日.

【研究会発表】

- 1) 岡本圭一郎 米発酵エキスと健康 : 歯学部発の研究内容を紹介します. 令和6年度第4回日本酒学セミナー(新潟大学). 2025年2月17日.

- 岡本圭一郎 結局酒は百薬の長なのか？ 歯学研究を明るく楽しむ交流会・歯科領域での AI 活用の検討会（伊東市）2024 年 11 月 30 日。

【その他】

- 岡本圭一郎. 古来からの知恵「米麴」のチカラを毎日のごはんに取り入れ, 健やかに. ソラミドごはんスカイバイビーズ. 2025 年 1 月 24 日(インターネットメディア報道).
<https://gohan.soramido.com/magazine/komekouji>

口腔生化学分野

【論文】

- Kiyokawa Y, Terajima M, Sato M, Inada E, Hori Y, Bando R, Iwase Y, Kubota N, Murakami T, Tsugane H, Watanabe S, Sonomura T, Terunuma M, Maeda T, Noguchi H, Saitoh I. Scratch-Based Isolation of Primary Cells (SCIP): A Novel Method to Obtain a Large Number of Human Dental Pulp Cells Through One-Step Cultivation. *J Clin Med*. 2024 Nov 22;13(23):7058. doi: 10.3390/jcm13237058.

【著書】

- 照沼美穂：「V編 生体と薬物」執筆 歯科衛生士国家試験ポイントチェック①人体の構造と機能／歯・口腔の構造と機能／疾病の成り立ち及び回復過程の促進 令和 4 年版出題基準準拠 医歯薬出版 第 1 版第 2 刷, 東京, 2024.

【研究費獲得】

- 照沼美穂（代表）：口腔感染症から紐解く正中隆起ペリニューロナルネットの機能. 日本学術振興会科学研究費基金 挑戦的研究（萌芽）, 24K22181.
- 照沼美穂（代表）：歯周病原細菌としての精神疾患発症機構の解明. 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤（B）, 21H03109.
- 照沼美穂（代表）：新たな不安発症の分子基盤解明のための日丁共同研究. 日本学術振興会科学研究費基金 国際共同研究強化（B）, 22KK0140.
- 照沼美穂（代表）：新潟大学令和 6 年度科研費応募支援プログラム.
- 照沼美穂（分担）：チタン結晶構造制御と VUV 照射による骨結合促進可能なインプラント表面開発. 日本学術振興会科学研究費基金 基盤（C）, 23K09292.
- 照沼美穂（分担）：抗酸化物質による移植細胞の長期保存、長期機能発現を可能にする新規骨増生法の

開発. 日本学術振興会科学研究費基金 基盤（C）, 23K09272.

- 照沼美穂（分担）：抗不安モデルマウスを用いたストレス耐性神経回路の解明. 日本学術振興会科学研究費基金 基盤（C）, 23K068043.
- 照沼美穂（分担）：新規器官培養法による乳歯由来ヒト iPS 細胞を経由したインスリン分泌細胞形成の誘導. 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤（B）, 23K24535.
- 照沼美穂（分担）：末梢神経損傷により途切れた神経回路の人工シナプスコネクタによる感覚再生への挑戦. 日本学術振興会科学研究費基金 挑戦的研究（萌芽）, 22K19615.
- 市木貴子（代表）：革新的イメージング技術による脳腸関連メカニズムの解明. JST 戦略的創造研究推進事業 さきがけ「生体多感覚システム」領域, 23829130.
- 市木貴子（代表）：消化管におけるアレルギー受容メカニズムの解明. 日本学術振興会科学研究費基金 基盤研究（B）, 24K02119.
- 市木貴子（代表）：2024 年度第 38 回海外研究者招聘助成. 公益財団法人ブレインサイエンス振興財団
- 市木貴子（分担）：新たな不安発症の分子基盤解明のための日丁共同研究. 日本学術振興会科学研究費基金 国際共同研究強化（B）, 22KK0140.
- 那須優介（代表）：歯周病原細菌による菌血症がもたらす精神疾患発症機構の解明. 日本学術振興会科学研究費基金 研究活動スタート支援, 24K23544.

【招待講演・シンポジウム】

- 照沼美穂：神経科学や口腔—他臓器連関研究の面白さ, 新潟大学歯学部同窓会学術講演, 新潟県新潟市, 2024 年 4 月 21 日.
- 照沼美穂：「アディクションの克服に向けて」, CINP2024(第 35 回国際神経精神薬理学会世界大会), 東京, 2024 年 5 月 23-26 日.
- Miho Terunuma: Targeting Lipogenesis as a Potential Strategy for Oral Cancer Treatment. International Collaborative Symposium on Development of Human Resources in Practical Oral Health and Treatment. Thailand, Bangkok, May 31- June 1, 2024.
- 照沼美穂：脂質代謝の制御から見出す新たな抗がん作用機構. 第 66 回歯科基礎医学会学術大会, 長崎県長崎市, 2024 年 11 月 2-4 日.
- 照沼美穂：学生のリアルな声に基づいた若手支援を考える. 第 97 回日本生化学会大会, 神奈川県横浜市, 2024 年 11 月 6-8 日.
- 市木貴子：消化管における飲水制御機構の解明. 第